その情報本物？～ニセ画像やニセ情報に騙されないで！～

近年、「生成AI」という技術が普及し始めています。技術の進歩によりインターネットの利用環境は進化を遂げていますが、その反面、新たなトラブルやディープフェイクが生まれています。今回は生成AIやディープフェイクが用いられた事件と危険性についてご紹介します。

生成AIとは？

インターネット上にある膨大なデータを学習することで、指示どおりに新たな文章や画像などを生み出すことができる人工知能です。

従来のAIは「学習済みのデータの中から適切な回答を探して提示する性質」を持っていましたが、生成AIは「0から1を生み出す」ことができます。

ディープフェイクとは？

ディープフェイクとは、人工知能 (AI) 技術を用いて生成された偽の画像や映像、音声、生成する技術を指します。

本物と見分けがつかないほどのリアルな映像や音声を生成することが可能で、セキュリティや社会的影響、プライバシー面でリスクがあります。

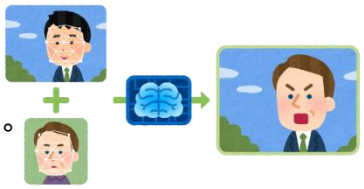
実際に起こった事件…

生成AIを利用した犯罪

生成AIを活用した自作プログラムを用いて、企業の顧客情報にアクセスしました。
そこで得た顧客情報を使用して「他人を装い」商品の購入を行っていました。
犯罪であると理解していながらもお金のために実行してしまいました。

ディープフェイクによる被害

Bさんは身に覚えのない自分の写真が知らぬ間に拡散されていました。
写真は第三者がBさんの卒業アルバムを生成AIによって加工したものでした。
ネットで拡散された画像が原因で、Ｂさんは誹謗中傷を受けました。



生成ＡＩを利用する前に知っておきましょう

〇生成ＡＩを利用した際に入力した情報等が場合によっては、漏えいする可能性が…

生成AIは情報を蓄積することで、できることが増えたり、正確性が向上していきます。
・自分が使用していない場面でも、知らない間にあなたの情報が使用される可能性がある。
・他者に情報が公開される可能性がある。

〇誤った情報を基にしたニュースや画像、動画等が簡単に作成されてしまう可能性が…

生成AIは、画像や動画等を入力された指示等に従って大量に作成することができます。
・知らない間に写真や動画を加工され、肖像権が侵害されたり、名誉を傷つけられる。
・なりすましにあい、架空請求や特殊詐欺等の犯罪に巻き込まれてしまう。

生成AIやディープフェイクへの対応方法

生成AIを正しく活用することはわたしたちの生活を便利にする一方で、生成される情報に間違った情報が含まれていることや情報漏えいの危険性、権利侵害などさまざまなリスクや問題点があります。

生成AIやディープフェイクのトラブルを招いたり、巻き込まれたりしないように普段から以下のことに気をつけましょう。

- **生成AIで作成されたデータではないか疑いをもつ。**
- **元となる写真や個人情報を安易に投稿しない。**
- **どうしても投稿したい場合は公開範囲を限定する。**
- **正しい情報であるかどうかの根拠を必ず調べる。**

もし生成AIやディープフェイクを発見した場合は、保護者や学校、警察等に相談する他、以下の公的機関への相談も有効です。

個人情報保護機関　公式HP ： https://www.ppc.go.jp/index.html　電話番号：03-6457-9680

過去の啓発資料については、ＵＲＬ、二次元コードからご覧いただけます。
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/393698.html

岐阜県教育委員会　学校安全課／岐阜県子ども・女性部　私学振興課